

政権の横暴 忘れてはならぬ

小学校非常勤講師

(兵庫県 66)

横暴な国会運営や疑惑が相次いでいる。「共謀罪」法案のあいまいさ、加計学園の問題。それでも政府はきちんとした説明を避け、野党の質問にも逃げの答弁を繰り返す、少くも国民の知る権利に配慮しようという姿勢が感じられない。それどころか、ますます疑念は深まるばかりである。

ことだ。時間が経てば国民は忘れ、内閣支持率はまた盛り返すと見ているのである。国民はなめられている。

政府の国民に対する態度は、もう決まりごとのように一貫している。いつか忘れる。これでは政府の思うつぼである。疑惑は追及し、厳しい判断を国民が下さない限り、この国民を無視した国会運営は繰り返す。数の原理ですべて通ってしまおうかである。いくら野党が反対しても多数決で押し切れるからである。空しいというほかない。

こんな不安が残る法案を、参院法務委員会での審議を打ち切ったまで無理やり押し通したのにはなぜか。それは、少しでも早く国会を閉じて追及を逃れれば、国民は忘れると予想しての

こんな状況を打ち破るには国民の意識を変えるしかない。国会が閉会しても、終わりではずまされぬ。

「間違った法」認められない

自営業

(シンガポール 68)

「共謀罪」法の採決が強行された。多くの識者がこの法律を限りなく戦前の「治安維持法」に近いと指摘していることを理解した上で強行したのか、議員一人一人に尋ねたい。治安維持法があったがために獄死した多くの我が同胞の死を何と考えているのだろうか。

おりしも国会答弁で法務大臣が「治安維持法が当時としては適法であった」と主張しているのを聞くに及んで「こんな人たちに政権を任せていては……」と暗澹たる気持ちになる。安

全保障法制の時も政権与党

は多くの識者の「憲法違反」の声を無視して採決を強行した。そして法律ができる。「法令順守だから、我々のやっていることは適法」と主張するのだろうか。

しかし法にも「間違った法」もある。少なくとも治安維持法は「間違った法」であり、戦争が終わって先遣は「あの治安維持法は間違っていた」と反省したのではなかったか。「治安維持法は当時、適法に制定された」という法務大臣、いやそんな政権の強行する「共謀罪」を、何としても私は認めるわけにはいかない。